

あわみなと通信

暮らしを支える港湾と空港の話

みなと報告

豪雨災害による船舶航行の安全確保に向けて

～海面清掃兼油回収船「みずき」の漂流物回収状況～

日々秋らしくなっていますが、皆さま如何お過ごしでしょうか。
今年の夏は、猛暑に加えて、度重なる台風の上陸、豪雨、地震等による災害が発生しました。被災地の皆さまには、心からお見舞い申し上げます。

さて、豪雨は河川の氾濫等を通じて私たちの日常を脅かしますが、豪雨によって河川から海へ流れ出る倒木、草や生活ゴミ等は、大量の漂流物となって航路を覆い、船舶航行の支障となり、私たちの生活や地域の経済に大きな影響を及ぼします。

平成30年7月豪雨では、特に瀬戸内海全域で大量の漂流物が発生しました。これを浮遊ゴミとして回収処理するため、当事務所の海面清掃兼油回収船「みずき」は徳島県沖だけでなく、香川県沖～愛媛県沖まで回収支援に行き、豪雨発生後の7月9日から一ヶ月間で延べ1,048m³（10tダンプトラック156台分）もの浮遊ゴミを回収しました。作業の効率化を図るため、起重機船による回収した浮遊ゴミの陸揚げについて、災害協定に基づく海洋土木企業からの緊急支援をいただき、後日、事務所から感謝状を贈呈しました。

四国では南海トラフ地震による津波後、海域には大量の漂流物が発生すると考えられ、こういった海洋土木企業との連携や訓練の実地、さらには海面清掃兼油回収船や作業船の保持、海洋土木を担う作業船員や技術者の確保といったことが益々重要となってきています。

今年、徳島小松島港は外国との貿易を始めて70年を迎えました。当事務所では、徳島県（港湾管理者）、徳島市、小松島市（地元自治体）と協働で、様々な方々から港湾に関するご意見を伺う場を設け、徳島小松島港の来し方行く末を考える取り組みをしております。港湾施設の老朽化への対応、インパウンド等による港湾から地域の活性化を探るといった検討とあわせ、これらを実現させるために必要な海洋土木技術の継続的な保持についても考えたいと思っています。

平成30年11月30日 小松島港湾・空港整備事務所長 小田 幸伸



回収した漂流物



奮闘する職員



浮遊ゴミを回収する「みずき」

開港70周年の節目に徳島小松島港の来し方行く末を考える

当事務所では、徳島県、小松島市と共に事務局となり、開港70周年の節目に、徳島小松島港の将来像を関係者で検討し、中期構想を策定すること等を目的とした「徳島小松島港中期構想・活性化検討委員会」を立ち上げました。

徳島小松島港は、古くから天然の良港として知られ、また、藍の積出港としても栄えました。近年になって外国貿易のための大型岸壁や物流・生産拠点としての産業団地を整備し、徳島県の経済発展を支えてきました。現在は、四国で唯一となる首都圏を結ぶフェリー航路や阪神港を結ぶ国際フィーダー航路、国際コンテナ航路等を有し、四国の産業・経済にとって重要な港湾となっています。

一方で、港湾背後への高速道路延伸、新たな企業の立地、クルーズ船寄港の増大、トラックドライバー不足、南海トラフ地震の切迫性の高まり、港湾施設等の老朽化、陳腐化など徳島小松島港を取り巻く状況は大きく変化してきています。

このような中、平成30年9月26日「第一回徳島小松島港中期構想・活性化検討委員会」を開催し、委員の皆様より、徳島小松島港の抱える課題や将来像についてご意見を伺いました。

現在、中期構想の策定に向けて頂いたご意見をもとに検討を進めており、今年度中に「第二回徳島小松島港中期構想・活性化検討委員会」を開催する予定です。



第一回委員会の様子
(活発な議論が行われました。)

今年も県内各地で「リフレッシュ瀬戸内」を開催！

「リフレッシュ瀬戸内」とは、美しい瀬戸内海を次の世代へ引き継ごうと、平成5年から瀬戸内海の沿岸自治体で毎年行われている海岸の清掃活動です。

徳島県内では5月～7月にかけて、松茂町、鳴門市、小松島市、阿南市、徳島市において海岸清掃を行いました。延べ2,893人が参加し、合計12tものゴミを回収しました。

当事務所の海面清掃兼油回収船「みずき」も出動し、海面の浮遊ゴミの回収を行いました。また、事業概要を紹介するパネルを展示し、多くの方々に当事務所の役割について知って頂きました。

リフレッシュ瀬戸内は来年度も開催を予定しております。美しい地元の海岸のために、皆さんも一緒に参加しませんか？



清掃活動の様子
(小松島市横須・金磯海岸にて)



「みずき」出動



熱心にパネルを見る参加者の方々

こまぼんのなるほど！ みなと講座

～港湾・空港のことをもっと知っていただくために～



ぼくの名前は「こまぼん」。小松島港湾・空港整備事務所のマスコットキャラクターだよ。タヌキの耳としっぽが目印。一般公募によって名前がつけられたんだ。

今、クルーズが熱い！

近年、クルーズ船人気が高まり、徳島小松島港でも寄港する回数が増加しています。クルーズ船寄港により、大勢の旅客者が県内各地を訪れ、観光消費の拡大や観光振興、地域活性化に貢献しています。

平成30年4月4日には過去最大の大きさとなる14万トン級の英国船籍「マジスティック・プリンセス」が訪日外国人観光客約3,800人を乗せて初寄港しました。

また、阿波踊りシーズンには毎年多くのクルーズ船が寄港していますが、今年は4隻のクルーズ船が寄港し、阿波踊りツアーに出かけるなど徳島の魅力を体感してもらっています。

来年度はすでに、パナマ船籍の大型クルーズ船「MSCスプレンドィダ」の初寄港が予定されており（5月～10月にかけて合計6回寄港予定）、徳島のみながますます賑わうものと期待されています。



「マジスティック・プリンセス」寄港時
花見ツアーの様子



出典：徳島県資料より小松島港湾・空港整備事務所が作成



初寄港した「マジスティック・プリンセス」

官民連携による地域活性化に向けて ～港湾協力団体の指定～

「港湾協力団体」とは…？

港湾法の一部改正に伴い、官民連携による港湾の管理等を促進するために、港湾管理者（徳島県）が指定した民間団体のことです。

近年、クルーズ船入港時の歓迎イベントや海辺での自然体験活動等、港湾において地域活性化のための活動が活発化しているため、よりきめ細やかな港湾管理を実現していくためには、港湾を拠点に活動する民間団体との協力・連携を深める必要があることから、この制度が誕生しました。

徳島県内では、次の4団体が「港湾協力団体」に指定され、平成30年8月28日徳島県庁において、指定証の交付式が行われました。

- ・認定NPO法人新町川を守る会
- ・NPO法人アクア・チッタ
- ・NPO法人港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま
- ・一般社団法人CS阿波地域再生まちづくり（順不同）



（左から、NPO法人アクア・チッタ 岡部理事長、認定NPO法人新町川を守る会 中村理事長、飯泉徳島県知事、NPO法人港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま 出口理事長、一般社団法人CS阿波地域再生まちづくり 松本代表理事）

みなと通信

船に乗ってみなとを探検！～今年もみなと見学会を開催～

当事務所の港湾業務艇「ひのみね」に乗って、一般の方々が徳島小松島港を探検するイベント「みなと見学会」を今年も開催しました！8月13日と10月21日の2回開催し、多くの方々にみなとの役割や魅力を知っていただきました。特に、8月13日の見学会では、徳島小松島港に寄港した大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」を間近で見ることができ、皆さん大興奮の様子でした。

みなと見学会は不定期に開催しており、事務所ホームページにて開催案内を掲載しますので、ご覧ください。



港湾業務艇「ひのみね」と
大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」



港湾業務艇「ひのみね」から
クルーズ船を眺める参加者の皆さん



事務所業務概要を紹介するパネルを展示

みなとについて学ぶ～出前講座を開催～

10月25日、阿南市立桑野小学校4年生を対象に、徳島小松島港沖洲地区及び赤石地区で出前講座を行いました。

実際にフェリーやコンテナ貨物を見ながら、みなとの役割や物流、貿易について学習しました。たくさんの児童が手を上げて質問をしたり、夢中になってフェリーを観察したり、みなとで働く人や乗り物にも興味津々でした。

当事務所では、みなとのことだけでなく、海洋環境や防災関係の出前講座も行っております。



見学したオーシャン東九フェリー
「りつりん」



夢中になってフェリーを観察



質問タイム



お礼と感想文を
もらいました！

出前講座の申し込み受付中！

当事務所では、海と空の「みなと」のこと、また当事務所の仕事について、広く皆さんに知っていただくために、出前講座（みなと学習、環境学習、防災学習）を開講しています。

楽しく学べる当事務所の出前講座、現場見学会のご依頼を受け付けています。



出前講座、現場見学のお問い合わせは・・・

当事務所
TEL (0885)-32-3357

または ホームページ「暮らしを支える港湾と空港の話」
<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/komatsushima/>
よりお問い合わせください。